

### 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年 1月23日

#### 【評価実施概要】

事業所番号	2872700360		
法人名	社会福祉法人 正峰会		
事業所名	グループホーム さくらんぼ		
所在地	兵庫県西脇市黒田庄町黒田1601 - 30		
	(電話) 0795 - 28 - 5550		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成19年12月19日	評価確定日	平成20年1月23日

#### 【情報提供票より】(平成19年11月30日事業所記入)

##### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成15年 4月 1日(母屋)、平成17年 3月15日(新宅)		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 8人, 非常勤4人, 常勤換算	12人

##### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨耐火構造 造り		
	平屋	階建ての	~ 1 階部分

##### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000(母屋)、30,000(新宅)	その他の経費(月額)	12,000 円
敷金	(有) 200,000円 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( )円	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

##### (4) 利用者の概要( 月 日現在 )

利用者人数	18 名	男性 0 名	女性 18 名
要介護 1	2	要介護 2	3
要介護 3	6	要介護 4	4
要介護 5	3	要支援 2	0
年齢	平均 86.3 歳	78 歳	最高 98 歳

##### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大山病院、加西市民病院、河原歯科
---------	------------------

#### 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

中国自動車道滝野社ICから国道175号線を北へ30分走れば、併走する加古川の堤防を背にして、母屋と新居の平屋作り(2ユニット)が並んで建てられている(平均要介護度3.2)。清流加古川、JR駅舎、スーパーなど歩けば10分の距離。ホームの前の美容院とは近所付合い。低い垣根。広い庭。一角には、季節の野菜が植えられ春夏秋冬を手づかみできる。玄関先の椅子の直ぐ横には、陽射しを一杯に受けて低い物干しさおに洗濯物が揺れている。ゆったりとして開放感がある。小学生が登下校時にホームの前を通る。中に入れば、広いリビングに置かれた機織り機に見入ってしまう。中庭を囲むように居室が並び、廊下には、椅子がここそこに配置され、一人の時間が持てる。法人関連病院(24時間対応)を中心にして、手の届く距離に、地域に根づいた保健・福祉・医療の連携・交流の姿が見える。自然たっぷりの環境と安心がホームを包み、時間がゆっくりと流れている。

#### 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	18人18色の個性を大切に考え、ニーズ(その人らしさ)実現には、「記録の仕方」が課題であると認識されている。点を線に繋ぐ作業が、少しずつ穏やかに微笑む利用者の日常生活の変化となり、また職員の満足度も高めてきている。1日の時間配分を今のまま濃く維持しつつ、利用者の満足度をより高めるため、職員の一工夫が続いている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	ホームの理念を実現する為に全職員が取り組んできた1年間の歩みを、職員が一人ひとり自問しつつ、自己評価項目一つ一つに向き合い作成した。日々の小さな気づきを大切にしていく。職員側に気づきの共有化が有ればこそ、「できていない事」を課題と捉える妥協しない前向きな姿勢の先には、利用者目線の明日の満足に繋がる頼もしさが見える。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	運営会議は12月22日に市町村職員、市民代表2名、家族代表4名等多くを集めて開催される。ホームのサービスの取り組み状況、外部評価内容など、広くホームの役割りを広報し、サービス向上を目指す一助としての機会として期待されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	ご家族から施設サービス向上に役立つ要望(意見箱、面会時の意見)などを積極的に汲み上げ、その内容を見やすい場所に掲示しており、家族会を通じての解決すべき問題点の共有化もなされており、ご家族の安心に繋げている。要望などを聞く事が、取りも直さず、ホームの成長する可能性に通じると前向きに考えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
重点項目	当地では、地域力(婦人会活動、老人会活動など)が維持できており、日常の挨拶、野菜のプレゼント、見守り、連絡など、叩けば響く距離感になっている。既に法人を挙げての地域再生活動としての貢献は、5回目を経験した「健康ふれあいフェスタ」に見られる。また、地域交流委員会が、今後、地域との連絡口として開放されることから、地域での保健・福祉・医療の情報発信拠点として、ホームの認知にも後押し効果が望め、地域との連携が期待される。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念である「お一人おひとりが生き生きと輝き、居心地の良い豊かな暮らしを創る」を実現する為に「寄り添うケア」「地域との交流」を進めている。無断外出された利用者その後を付きつ離れず同行する為の職員用自転車が入り口に置かれ、施錠しなくても安心なケアが地域住民の助けもあり、実行できている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念は、玄関の壁、スタッフルームなどの目が届く所に掲示されている。職員は理念を唱和できている。毎月の職員全体会議においても意識の共有化を図り、実現に向けて努力している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流のもたらす利用者へのプラス効果を十分に認識しており、ボランティア依頼、クラブ活動などにも積極的に取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員が協力して仕上げた。外部評価を受ける事は課題解決の為に必要であり、サービス・ケアの向上に役立つ気づきの機会でもあると理解されている。 また、前回の外部評価受審結果を活かして、今年度は記録の充実に取り組まれている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	外部評価実施日後(4日後)に運営推進会議が開催される予定になっている。	○	運営推進会議開催はやはりホームのサービスを高めてゆく為の力強いモニター役である。課題が思いがけなく解決するかもしれない。ホームの認知度をより広く深く高める良い機会として双方向性効果を期待したい。
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市町村合併が行われた為に、以前のような緊密な町の担当者との行き来する関係作りは仕切り直しの感があり、これからである。	○	後日開催される運営推進会議が関係作りの積極的な一歩となることを期待したい。また、ホーム内勉強会に市町の担当者を講師依頼するなどの道も考慮されてははいかがでしょうか。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	ご家族の訪問時に利用者の近況を報告し、さくらんぼ広報委員による広報誌(さくらんぼの暮らし)で誕生日、行事などを報告している。金銭管理は定期的に報告されており、領収書が渡されている。		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族会開催などで希望を聴取し、また、意見箱を設置しており、広く前向きな取り組み姿勢が見られる。直ぐ傍の掲示板にホームへの要望内容を掲示して公開できている。		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	「母屋と新宅」間の職員移動では、顔なじみである為に利用者へのダメージは少ない。新職員には速く馴染んでもらえるように関係作りに努力している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成プログラムは法人全体として機能しているが、ホームとして職員一人ひとりにあった研修受講を積極的に進めていきたいと考えている。くすり、排泄についてなど現場で知りたいことをテーマにして専門職による研修が行われている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内の介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、グループホームとは交流する機会は出来ているが、周辺にグループホームの数が少ない土地柄でもあり、他のグループホームとの交流は活発ではない。	○	まずは近郊のグループホームとの相互訪問の機会づくりを進めていきたいとの考えがある。サービスの種類(居宅、施設)を越えた、例えば「認知症ケアのありかた」を中心テーマに据えたような事例勉強会が情報交換の場にもなり、参加しやすいかもしれないので、実施されてはいかがでしょうか。
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に先立ち、1日は必ず本人が見学に来ていただく様にしている。不安を和らげる様に努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	節分、食事づくり、材料選びなどの数々の場では教え、教えられる双方向の楽しい機会づくりがなされている。昔の生活の知恵に職員が感心する事も多い。調査当日の昼食は、利用者参加の手作りの「おでん」であったが、共同作業を通じて、美味しく食べる雰囲気づくりができています。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者を取り巻く情報の収集に努めているが、個別ケアの為に生活歴情報が不足しているという自覚がある。今以上の良いサービスに繋げてゆきたいと言う意欲がある。</p>	○	<p>利用者目線での希望とニーズの把握は、ケアプラン作成のために大切である。センター方式の導入でますますの利用者の精神面、身体面、環境面など多角的評価に期待される。そして、「楽しい日常生活」の支援に直結されるように期待したい。</p>
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者、ご家族から生活歴などの情報を集め、ホームでの「豊かな暮らし」が実現するように努める中、音楽活動を通じて認知症に起因した対人交流の欠如を改善し、外部への個人レッスン依頼へと広がり、精神的安定に効果を見ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ニーズの解決に向けた小さな気づきを大切にしており、ケアカンファレンスの場などでの確な見直しができる様に努力されている。小さな気づきを蓄積し、個別ケアに生かしている成功事例も増えている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>ホームから自宅に退所された方からデイサービスとして使いたいとの要望も出てきており、前向きに対処してゆきたいと思っているが、難しい面もあり、課題として捉えている。</p>	○	<p>この希望も当ホームへの良い外部評価であると言える。理念実現のためには「1日が30時間ほしい」との管理者の言葉に前向きで、妥協しない自己評価への取り組み姿勢が伝わってくる。急がずに取り組んで欲しい。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>同一法人の病院は当地黒田庄町地区の最大にして唯一24時間救急対応ができる設備が整い、ホーム入居者にも安心を提供している。ご家族及び入居者の希望を優先して納得が得られるように対応している。歯科の往診は軌道に乗っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ご家族の希望として「看取り」が出されている。医療職がいいため、不安はあるが法人の病院、訪問看護などの助けを借りつつ前向きに取り組めるように努力中である。</p>	○	<p>長期の入院によるダメージは職員の理解するところであり、早期の退院に努めている。また、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問診療の足並みで、自然な流れとして「看取り」へと進むように感じられた。期待したい。</p>
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入浴場面、排泄環境などへの配慮はできている。自室は利用者が鍵を管理している。取り上げるケアではなく、「能力を伸ばすケア」に取り組む事がプライバシーの確保に繋がることの方針である。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>理念の一つである「利用者のペースを尊重する」暮らしは、取りも直さず「その人らしさ」を大切にすることである。日々の暮らしを支援するための試行錯誤の足跡が見える。また、ご家族の希望も汲み上げつつ、利用者の自己決定を支援している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月2回の食事作りが、週に2回の食事作りに増えている。食事の準備から後片付けまでの一連の流れが食事を楽しむことと理解されている。「食器洗い当番表」が壁に掛けられており、曜日確認にも役だつ。仲間意識・役割り分担からトラブル防止にも役立っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、好きな時間に入浴できる。さくら風呂、ゆず風呂、名湯の湯風呂など。入浴を楽しみにする工夫に努力している。多人数風呂を職員の提案で2人風呂に改造している。職員が日常的に大切にしている支援と笑顔がホームの日常生活の活動性を高く維持している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	音楽活動、学習療法、料理教室、手芸教室、外出活動、園芸、ふれ合い行事などの各種行事を通して利用者の役割り、楽しみ、気晴らしに働きかけつつ、「次の何か」に繋がるように工夫されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ケーキを食べに外出したり、買物、ドライブで隣の市の公園などへ外出したり、日常的なホーム内での行事活動・クラブ活動などの合間をぬって、できる限りの外出が十分に行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠しない方針である。自由に庭先、畑、散歩に出る事ができる。職員は、利用者が出かけるタイミングとサインを見逃さないように努めている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	ホームから数分も歩けば、同グループの病院、施設があり、緊急時に頼もしい距離感である。スタッフルームのロッカー内には持ち出し用の救急箱、薬が常備されている。今年の台風上陸の際には、近くの特別養護老人ホームに避難しており、ご家族に安心をもたらした。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	口からしっかりと食べることが、体の元気の源と位置づけ、できる限りキザミ食にはしない方針である。好きな物を美味しく食するために同じような色の食器は見られない。利用者は、自分の箸、自分のコップを使用している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	広い前庭は開放的で陽が一杯降りそそぐ。玄関先に置かれた椅子、テーブルはゆっくりとしたお茶タイムに会話が弾む場所。中庭を見渡せる廊下にはソファが配置され、ここ、そこで、一人の、二人の思い思いの時間を過ごせる気配りがなされている。トイレが3箇所配置されており、内部は明るい色あいにされている。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	入居者の居室間違いを防止するために入居者が手作りで作った表札の取り付けが奏効している。私物タンス、家族の写真、自分の作品、愛用の琴、仏壇など、生活の基線の継続が安心感を増幅させる。家族のさり気ない協力が感じられる。		

 は、重点項目。